

「人生の転機には人がいる」

——外科医から透析医へ——

(医) 薫楓会(くんぷうかい)メープル尽クリニック
理事長・院長 菅 淳一

「鬼手仏心」から「和顔愛語」

1) 泌尿器科医

2) 外科医

3) 内科医 ——> 気がついたら人工透析

「予定は未定にして確定にあらず」「臨機応変」

■大学時代の昔話

■義務年限内は一つの医局

■開業医も地域医療の担い手

■地域医療の発展・継続には後継者がぜひ必要

私のヒストリーは:

1956年2月生まれ69歳

1974年3月大分県立大分上野丘高校卒業

1980年3月自治医科大学医学部卒業

1980年6月大分県医務課職員、大分県立病院初期研修(多科ローテート:主として外科研修)

1982年6月東国東広域国保総合病院外科

外科医

1984年6月大分県立病院後期研修:外科専属

1985年6月姫島村診療所副所長

1987年6月大分県立病院後期研修:外科専属

——外科認定医取得1987年——

1988年6月清川村診療所所長

1989年6月東国東広域国保総合病院外科

1991年6月義務年限終了、そのまま同院へ就職:外科所属

——外科専門医取得2003年——

1996年5月透析科部長(父親の大腸癌手術を最終に外科を離れる16年間)

透析科医

2007年11月(医)薫楓会メープル尽クリニック開業(卒後27年)

内科開業医



好月の誉

使用する用土が鹿沼土

栃木で人気のサツキ盆栽



日光

なぜ医師を志したのか

高校の同級生：K君、K君いずれも実家は開業医をしていた。

高校時代は工学部での研究を夢に描いていた。

彼らと高校時代を切磋琢磨するうちに、医師へのあこがれが生まれてきた。

この2人の存在がなければ医師を志すこともなかった。

——「地域医療への関心は全くなかった！」——すみません。

なぜ自治医科大学を目指したのか

- 当時は1期校、2期校と受験が可能だった。さらに自治医科大学、防衛医科大学校と受験可能であった。
 - 九州には4つのK大学医学部が存在していた。
高校時代の仲間4名が同じK大学を受験し、同じ大学で学生時代を謳歌しようと約束していた。
しかし結果は、1名だけが工学部に合格しK大学へ進学した。
「まさに三振：KKKであった。」
-
- 自分は2期校のK大学を受験して合格の通知を頂いた。
 - しかしその前に自治医科大学から合格通知を頂いており、そちらを選択した。
「申し訳なかったが、地域医療への情熱は微塵もなかった。」



自治医科大学校歌

自治医科大学校歌選委員会選

原作 詞 佐々木康雄

曲 寺門道之

若草萌える 下野の
みどり松原 風うたう
白亜も眩し 自治医大
真理と愛を 胸に秘め
若きひとみも さえでえと
ともに進まん 医の道を
はるかに仰ぐ 男体の
高き理想と 鬼怒川の
清さを映す 自治医大
英知の泉 汲みかわし
若きゆくても はるばると
ともに進まん 医の道を
ゆかりは深し 薬師寺の
古きくすしの かげ慕い
こころを継ぎし 自治医大
医療の谷間へ 灯をともし
若き誓いも あたかく
ともに進まん 医の道を

大塚順之書

自治医科大学：開学当初は松林が多く緑も多かった



松林が建物や駐車場に变身

入学してから建学の精神「地域の医療に貢献する」に触れる

いつ地域医療に興味を持ち始めたのか

- 学生時代の地域医療実習のインパクトは大きかった。
 - つい数か月前まで高校生だった学生が白衣を着て住民健診に参加した時「先生！」と呼ばれて、「ハッとした。」
 - 初代学長の中尾喜久先生が仏様のような笑顔で地域医療をお話しされた時、「ハッとした。」
-

忍・慈・努

学長から卒業記念に贈られた色紙の一文字（3期生まで）

「大学時代の同期生・先輩」の影響

3期：足立昌士先生
佐藤隆美先生
大分上野丘高校卒
剣道部へ誘われて

2期：長松宜哉先生
西村卓三先生
佐藤充弘先生



地域医療実習(大学1年生)佐伯大島へ



佐藤充弘先生

新幹線をバックに囲碁勝負



足立 ・ 佐藤 先生



剣道部

剣道部創部メンバー：1期生石本・岩花先生



顧問、森岡恭彦教授と卒業記念写真



久しぶりに米国から帰国して

長松 ・ 佐藤 ・ 馬場先生



メーブル尽クリニック

「1期生として新しい道を開拓した」

竹田津 文俊先生（内科）
後藤 憲文 先生（外科）

2期先輩の後藤先生の後を追いかけるような派遣が続いた。



高久前学長と竹田津先生



竹田津文俊教授就任記念祝賀会 H11.8.8 於 大分東洋ホテル

26年経過した現在もほとんどの医師が大分県内で活躍

人生
七転び八起き



後藤先生と明石事務長、久しぶりの麻雀大会



晃山

進路決定には大学時代のゼミの影響は大きい

- 泌尿器科米瀬ゼミ；最後に頂いたコメント
- 「平凡な医者になりなさい」
これから裕福な生活が
できるかもしれないが、質素に

地域で活動する時に役立つ



泌尿器科：米瀬泰行教授

自治医大生の進路選択

- 自分の夢見る進路（専門科選択・研修計画）に対して義務年限による制限事項がある。
- 初期は診療所勤務を想定して内科・外科・小児科の進路が中心でマイナー科の選択は難しかった。
- 研修病院は大分県立病院単独で、後期研修から自治医科大学が追加された。
- 既存の大学医局に所属せず、勤務上での援助が得られにくい。
- 専門医研修での実績や指導教官の選択が限られていた。
（中核病院は対象外でスタートが遅れる）
- 診療所勤務期間での専門医研修が中断する。

先輩の後を追うー＞義務年限内は一つの医局。

「県立病院で外科医としての研修」

中村泰也先生（外科認定医）
織部孝史先生

外科認定医取得に8年を要した。

（研修病院での勤務が継続できない）



中村泰也先生 ロマンあふれる先生であったが久住山から下山直後に急死された

東国東広域病院(国東市民病院)

初めての地域医療で

- ・**靱井真美先生(院長)**
- ・**加茂成人先生(副院長)**

外科から透析科へ

たまたま手伝いとして始めた

透析医療(1967年健保適応)
だったが、、。





後年、市民病院で亡くなられるまで、憎き
暮仇であり父亡き後の親代わりであった。
お世話になりました。

国東市民病院副院長 **加茂成人**先生（胸部外科一＞透析科医）

姫島診療所では

住民として
地域の人との触れ合い

- ・藤本昭夫 村長
- ・明石 直 事務長
- ・松本 孝 先生夫妻

楽しいことも辛いこともありますが
平凡な医師として存在することが大事



松本孝先生：姫島での船曳まつり



次女が生まれる時、夜中に破水して漁船で対岸まで運んでももらいました。任期中、最初で最後でした。フェリー乗り場の岸壁で出産したのは家内だけでした。可哀想な事をしました。

姫島での船曳まつり



次女のお宮参りのお祝いの席で。
村長さんと一緒に働いた歯科の青木先生。
豪快な人でした。

藤本村長と歯科青木先生



辛いことも楽しいことも盛りだくさんの2年間でした。
村長さんに長女は抱かれ出港です。



2年間の勤務を終えて涙の連絡船

「義務年限を終えて、公務員としての就職 そして開業」

- ・透析科部長・医局長として勤務
多科の先生と交流：**中核病院の強み**
- ・藤原 亨 先生（整形外科）
お酒と魚釣り
診療科を超えた交流
開業へのアドバイス

開業医も大事な地域医療の担い手

たくさんのコメディカルと釣同好会



藤原亨先生：整形外科

メープル尽クリニック



好月の誉



2007年11月3日開院

メーブル尽クリニック

「地域医療発展・継続のため」

- ・国東市医師会長として6年間
時まさにコロナ全盛で
感染症対策に明け暮れる日々
市医療保健課、渡邊・下鶴課長のご尽力
保健所に自治卒の先生方の存在は大きい。
 - ・医師会も後継者不足で閉院もある。
-
- ・医院継続を目指して 一＞経営者が変わっても
 - ・高齢医師の協力も必要

「本当に良かった出会いは」

- ・地域医療実践のため側で
支えてくれた家族。やはり感謝です。
- ・そしてこれからの期待は、、、。
人が変わっても経営者が変わっても、

後継者が大切で
住民は継続を期待している。



次の世代へバトンタッチ

今後の課題：高齢医師の協力は

- 経済的な投資や負担は出来にくい。
- 健康問題も含めて、勤務する任期には期限が必要。
- 研究や行政で活躍した医師の、採用時のブラッシュアップが必要。
- そして何より家族の理解が必要。
- 更に何時でも届くバックアップ体制が必要（2次救急、休養などなど）。

「まとめ」

- ・自分が描いた夢は予定でありまだ未定、
確定ではない。
- ・自分の意思決定には人との出会いが大きな意味を持つ。
良くも悪くも、、、。
- ・開業医も地域医療に貢献している。
建学の精神は生き続けている。
- ・地域医療の発展・継続には後継者がぜひ必要。
「新進気鋭の若手医師」から「老練余力の高齢医師」へ

本当に自分を支えてくれた人はだれ、、、。



新日光

いろいろな個性が集まって地域医療を



旭の泉



桃好の月



珍山